

# 越中国府関連遺跡調査概報Ⅶ

— 平成5年度、伏木古国府5号線マイロード事業にかかる調査 —

1994年3月

高岡市教育委員会





1. 調査地区全景、確認状態（東）



2. 調査地区全景、掘り上げ状態（東）



## 例 言

1. 本書は、伏木古国府 5 号線マイロード事業に伴う、越中国府関連遺跡発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、高岡市建設部道路建設課の委託を受けて高岡市教育委員会が実施した。
3. 調査地区は、高岡市伏木古国府である。
4. 調査関係者は、次のとおりである。

社会教育課長：野村一郎

課長補佐：鹿島誠一

文化係長：大石茂

係員：山口辰一

係員：樋木和代

5. 本書における遺構記号は、次のとおりである。

S D - 溝, S K - 土坑

6. 現地調査及び報告書作成において、以下の各氏より御教示・御援助を得た。

(順不同、敬称略)

土山照慎（勝興寺住職）

西野龍雄（高町自治会長）

宮田進一（富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所）

7. 本書の執筆は、山口が担当した。

サ

## 調査参加者名簿

発掘 大谷知可子、小林茂、坂林泰子、杉本広政、杉本光映、高田えみ子、道谷美奈子、中島和美、前田武國、水外一郎、横田充弘、吉田敦子  
整理 大谷知可子、刑部美和子、坂林泰子、杉本光映、高田えみ子、寺井久子、道谷美奈子、中島和美、横真理子、三島幸代、山崎理乙子



## 目 次

卷首圖版

例 言

目 次

I 序 説	1
II 遺 構	5
1. 土坑	5
2. 溝	6
III 遺 物	8
1. 土器	8
2. 陶磁器	8
3. 瓦	12
4. 土製品	12
5. 石製品	12
IV 結 語	13

## 図 版 目 次

- 卷首図版 1. 調査地区全景、確認状態（東）  
2. 調査地区全景、振り上げ状態（東）
- 図版1 遺構 1. 調査地区全景、確認状態（西）  
2. 調査地区全景、確認状態（東）
- 図版2 遺構 1. 調査地区全景、振り上げ状態（西）  
2. 調査地区全景、振り上げ状態（東）
- 図版3 遺構 1. 陶磁器出土状態  
2. 陶磁器出土状態
- 図版4 遺構 1. 陶磁器・土鍤出土状態  
2. 陶磁器・土鍤出土状態
- 図版5 遺構 1. 瓦出土状態  
2. 瓦出土状態
- 図版6 遺物 1. 土器  
2. 陶磁器
- 図版7 遺物 1. 陶磁器・越中瀬戸（内面）  
2. 陶磁器・越中瀬戸（外面）
- 図版8 遺物 1. 陶磁器・唐津（内面）  
2. 陶磁器・唐津（外面）
- 図版9 遺物 1. 陶磁器・伊万里（内面）  
2. 陶磁器・伊万里（外面）
- 図版10 遺物 1. 瓦  
2. 土製品  
3. 石製品

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 (1/5万) .....	1
第2図 調査地区位置図 (1/5,000) .....	2
第3図 調査風景 .....	4
第4図 遺構図 (1/200) .....	7
第5図 土器・陶磁器実測図 (1/3) .....	9
第6図 陶磁器実測図 (1/3) .....	10
第7図 瓦等実測図 (1/2) .....	11



# I 序 説

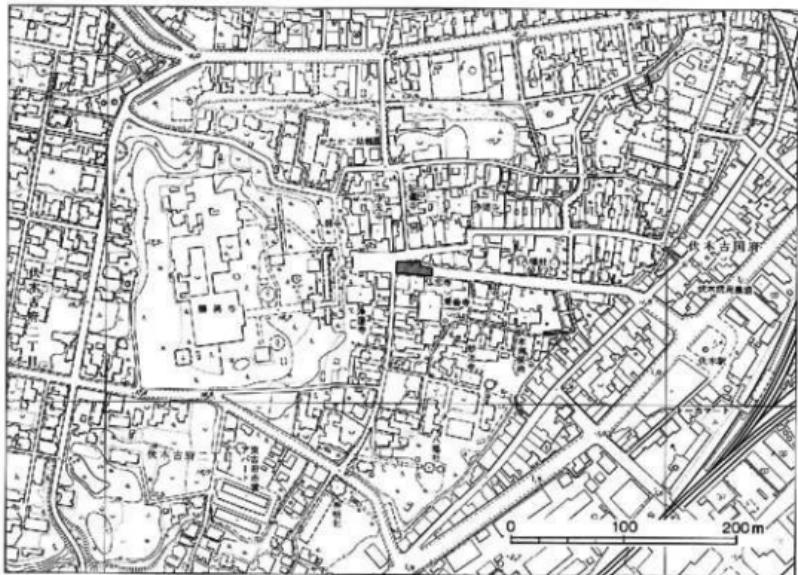
## 遺跡概観

越中国府関連遺跡は、高岡市街地の北側、富山湾へと注ぐ小矢部川の河口左岸の伏木台地に位置している。伏木台地は南北2.15km、東西1.75kmの規模で、上位と下位との2つの段丘から構成されている。この台地全体が遺跡地帯（埋蔵文化財包蔵地）と判断している。

この越中国府関連遺跡と総称している遺跡は、越中国府跡推定地、県指定史跡越中国分寺跡、越中国分尼寺跡想定地を中心に、これに関連する施設や集落遺跡を含むものである。また国府以前の古墳群や寺院跡、以後の城郭跡等も当地内に所在している。



第1図 遺跡位置図 (1/5万)



第2図 調査地区位置図 (1/5,000)

越中国庁は、下位段丘の中央部分に存在していたものと推定されている。現在浄土真宗本願寺派の大寺院「勝興寺」の境内地となっているところである。

越中国分寺跡は、下位段丘の北部に比定されている。国庁跡推定地の北西約600mの地点である。現在、真言宗の寺となっている国分寺の境内地を中心に寺域が想定されている。またこの境内地約1,530m<sup>2</sup>が越中国分寺跡として県の指定史跡になっている。

越中国分尼寺跡については、諸国の実例から国庁跡や国分寺跡の周辺に所在していたとする見解が中心である。具体的な場所については、数箇所ある古瓦採集地の内、一つを当てる説がある。

越中国庁・国府を特徴付けることとして、万葉の歌人大伴家持の存在がある。家持は越中国司として当地に天平18年（746年）から天平勝宝3年（751年）までの5箇年間で在任し、数々の歌を詠んだことは著名であり、このことから勝興寺を中心とする伏木地区が万葉の故地の一つとされている。また、国司館跡想定地は、勝興寺の東側一帯とされている。

## 調査に至る経緯

高岡市の北部に位置する「伏木地区」は、奈良時代に越中国府が設置された所であり、また港町としても栄えてきた所である。しかし、近年はやや活気が失われ、経済力も低下してきている。このようななかで、本市においては「高岡市北部地区開発整備基本計画」を策定し、当地区的恵まれた自然資源を活かし、歴史的文化的遺産の掘り起こし、地域の活性化を目指しているところである。具体的には「歴史と未来のロマンがあふれるまち」を目指して地区全体を5つのゾーンに分け、各事業を実施してきている。

一方、「マイロード事業」は「特に地方の個性と創意工夫を活かした地域振興施策について、関連する道路整備を重点的に実施し、心のよりどころとなるような道路を創出することにより、魅力と活力ある地域づくりを推進することを目的とする」事業である。

伏木地区の中央部に位置する勝興寺周辺は近世寺内町の様相を今日まで止めると共に、万葉の故地の中核部分であり、この由緒ある歴史と文化にふさわしい町並み景観の創出は必要なことである。そこで、勝興寺の門前通りを「マイロード事業」に組入れ、「万葉の歴史と文化が薫るみち」として整備を図ることになった。この計画は「伏木古国府5号線マイロード事業」として、JR伏木駅前から勝興寺總門前までと、勝興寺總門前から南側へ折れる道を整備するものである。

勝興寺付近は越中國府跡推定地であるばかりか、戦国時代の遺構等も確認される埋蔵文化財包蔵地であり、事業主体の市建設部道路建設課と協議して、工事に先立って、発掘調査を実施することになった。JR伏木駅前から勝興寺總門前へ至る参道は、明治30年に開設された道路であり、その時の切り通された部分は、遺構が残っていないと判断したので、発掘調査は、勝興寺總門東側付近を中心実施することになった。そして、今回この調査に割ける人員等の関係もあり、平成5年度はこの一部を実施することになった。

調査地区は現在生活道路であり、調査に当たって舗装面を剥がし、終了後に仮舗装する必要もあった。このことも考慮に入れて、試掘調査を実施せず、直ちに本調査にかかることにした。

## 調査経過

発掘調査は、平成5年8月25日から10月29日まで実施した。実働調査日数は22日である。8月25～26日は、資材の運搬や組立ハウス、テントの設営等、調査準備にあて、実際の掘削は8月30日からとなった。バックフォーにより表土（道路建設のための盛土）を除去し、これらはダンプカーに積載して場外へ搬出した。その後人力により掘り下げた。ある程度予想されたことではあるが、近・現代における各種工事による掘削跡は相当量に上った。瓦粘土採取、第2次大戦中のタコツボ（壕）、水道管の敷設、下水道管の敷設、融雪装置の敷設等の工事である。これらを掘り下げることをせずその範囲を明確化するに止めた。それでも手間隙を要し、調査面積や検出遺構の量に対して通常より調査期間が多くかかった。遺構の掘り下げや記録の作成は10月8日までに終了、その後数日間をかけて埋め戻しや後始末を行った。発掘調査面積は290m<sup>2</sup>となった。

### 検出遺構

検出遺構は以下のとおりである。

土坑 9 基 (S K01~09)

溝 1 条 (S D01)

遺構番号は当地区のみのものとした。また遺構名や遺構番号を付けていないが、上記以外に土坑状のものやピット等が多数ある。

### 出土遺物

遺物は、主に次の 3 時期のもので、1. 平安時代後期、2. 戦国時代、3. 江戸時代である。遺物の種類は以下のとおりである。

1. 土器；土師器、須恵器
2. 陶磁器；越中瀬戸、丸山（富山県婦負郡八尾町丸山地内の焼物）？、唐津、伊万里
3. 瓦；焼瓦、釉薬瓦
4. 土製品；土鍤
5. 石製品；砥石

### グリッド

調査地区的グリッドは、平面直角座標系に合わせた。第 4 図における、X = 1, Y = 1 の地点は、原点より、西へ 9,745m、北へ 87,611m 行った位置である。

### レベル

調査地区的標高は、現在の道路面上で、東側が約 13.54m、西側が約 14.53m である。



第 3 図  
調査風景

## II 遺 構

### 1. 土 抗

#### S K01

調査地区の西端部（2・3、3・4）区で検出された。平面形は梢円形と推定される。規模は、南北0.50m以上、東西1.95m、深さ34cmを計る。北側は融雪装置部分のため調査していない。出土遺物は土師器である。

#### S K02

調査地区の中央南端部（7・8、2・3）区で検出された。平面形は梢円形と推定される。規模は、南北2.05m以上、東西1.35m（推定値）、深さ57cmを計る。中央部を東西に下水道管理設のため切られている。SK03を切っている。出土遺物は土師器である。図示したものでは、土師皿110.112が出土している。

#### S K03

調査地区の中央南端部（7・8、2）区で検出された。平面形は不明である。規模は、南北0.70m以上、東西1.55m、深さ20cmを計る。北側はSK02と下水道管理設のため切られている。南側は水道管理設のため切られている。出土遺物は土師器である。

#### S K04

調査地区の東端部（11・12、3）区で検出された。平面形は略円形である。規模は、南北1.00m、東西1.10m以上、深さ18cmを計る。東側はピット・カクランに切られている。出土遺物は土師器である。図示したものでは、土師器皿106が出土している。

#### S K05

調査地区的南西側（4、3）区で検出された。平面形は略円形である。規模は、南北1.00m以上、東西1.40m、深さ22cmを計る。南側は下水道管理設のため切られている。出土遺物は土師器である。図示したものでは、土師器皿117.118が出土している。

#### S K06

調査地区的西端部（2・3、4）区で検出された。平面形は不正梢円形と推定される。規模は、南北0.45m以上、東西1.45m、深さ55cmを計る。南側は融雪装置部分のため調査していない。出土遺物は土師器、陶磁器、焼瓦である。焼瓦は図示した菊丸301である。

#### S K07

調査地区の西側中央（4、4）区で検出された。平面形は略円形である。規模は、南北1.00m、東西0.95m、深さ126cmを計る。出土遺物は、土師器、陶磁器である。図示したものでは、土師器皿116、越中瀬戸皿202、越中瀬戸擂鉢206が出土している。

#### S K 08

調査地区の南東側（9，2）区で検出された。平面形は楕円形と推定される。規模は南北0.85m以上、東西0.35m以上、深さ21cmを計る。北側と西側を下水道管埋設のため切られている。土坑としたが、大型のピットとも言える。出土遺物は土師器、陶磁器である。図示したものでは、土師器皿102が出土している。

#### S K 09

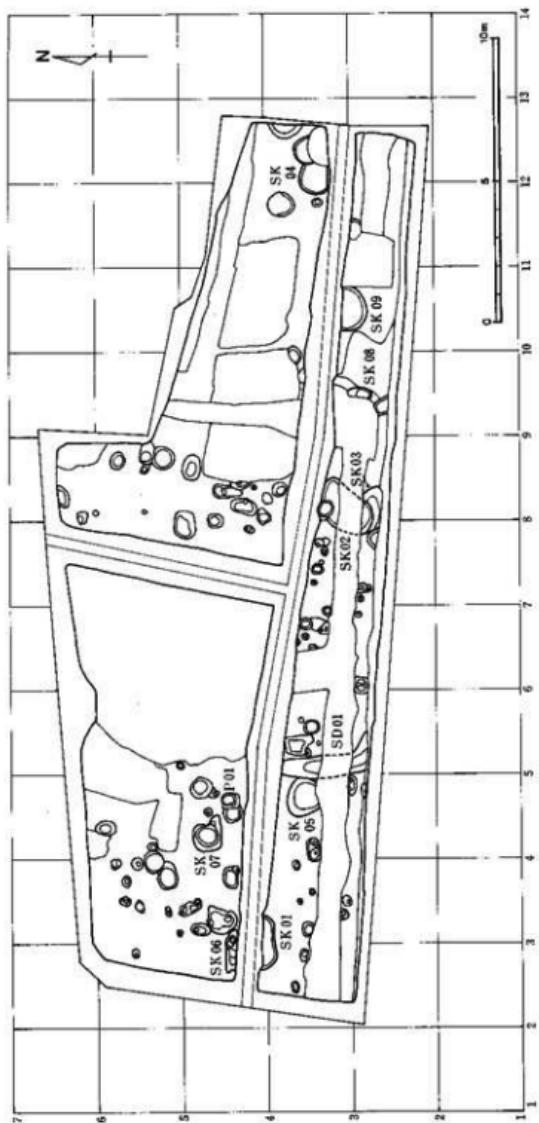
調査地区の南東側（10，2・3）区で検出された。平面形は円形と推定される。規模は南北0.9m以上、東西1.60m以上、深さ23cmを計る。北側は融雪装置部分のため調査していない。東側は下水道管埋設のため切られている。出土遺物は陶磁器である。図示したものでは唐津壺213が出土している。

## 2. 溝

#### S D 01

南北に走る溝である。調査地区の南西側（4・5，2・3）区で検出された。横断面は略U字形である。規模は、長さ3.00m以上、幅50～90cm、深さ15～27cmを計る。北側は融雪装置部分のため調査していない。南側は、水道管、そして調査地区外となる。中央部を下水道管埋設のため切られている。出土遺物は、土師器、陶磁器である。図示したものでは、伊万里碗216が出土している。

图4 四 造林图 (1/200)



### III 遺 物

#### 1. 土 器

##### 土師器A類

第5図-101~115。ロクロの土師器皿。全体の形態が判明するものは、小型の皿104.105のみである。椀に近い皿、小型の皿、柱状高台の皿であると推定される。

##### 土師器B類

第5図-116。非ロクロの土師器皿。口径9.2cmを計る。口縁部は内凹して立ち上がる。

##### 土師器C類

第5図-117~120。非ロクロの土師器皿。口径8.3~9.4cmを計る。調整手法は、体・底部をナデや指圧によって整え、口縁部を横ナデして外反させている。口端部内面は横ナデを施すことによってつまみ上げたような形態になる。

#### 2. 陶 磁 器

##### 越中瀬戸

第5図-201~206。201~203は皿である。202.203は削り出し高台で、釉薬も付く通有のものである。これに対して201は素焼きのまま釉薬は付かない。底部は糸切りのままである。204は壺の口縁・肩部である。口縁部は短く立ち上がる。釉薬はサビ釉である。205.206は擂鉢である。205が口縁部で、オロシ目も確認できる。206は底部片で、内面は磨滅している。両方ともサビ釉である。

##### 丸山

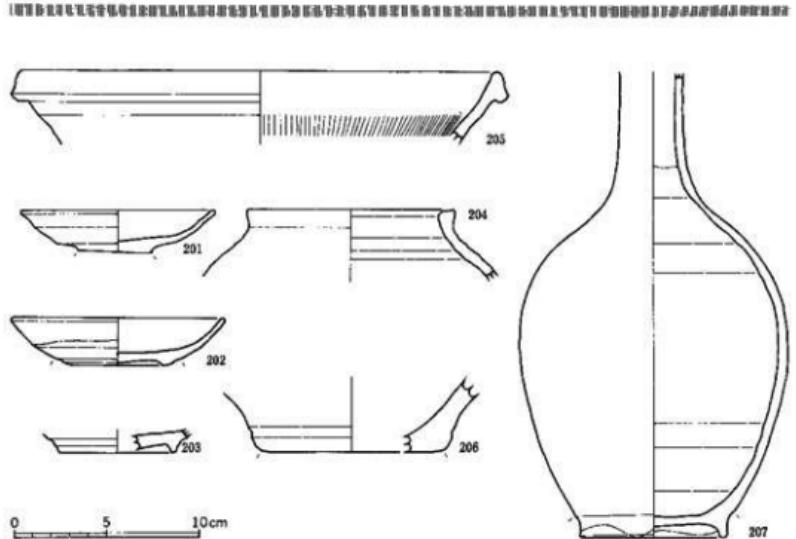
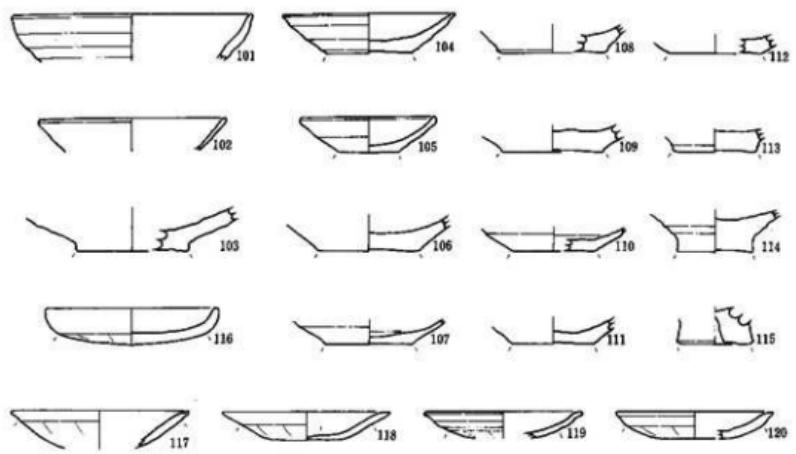
第5図-207。明確ではないが丸山焼である可能性がある壺である。

##### 唐津

第6図-208~213。208~211は椀である。208は陶胎染付である。209.210は京焼風の製品である。211は内外面に砂目が付着している。212は大型の鉢の底部片である。内面は刷毛目による波状文が付く。外面は全体にヘラ削りしている。213は壺で口縁部は欠損している。

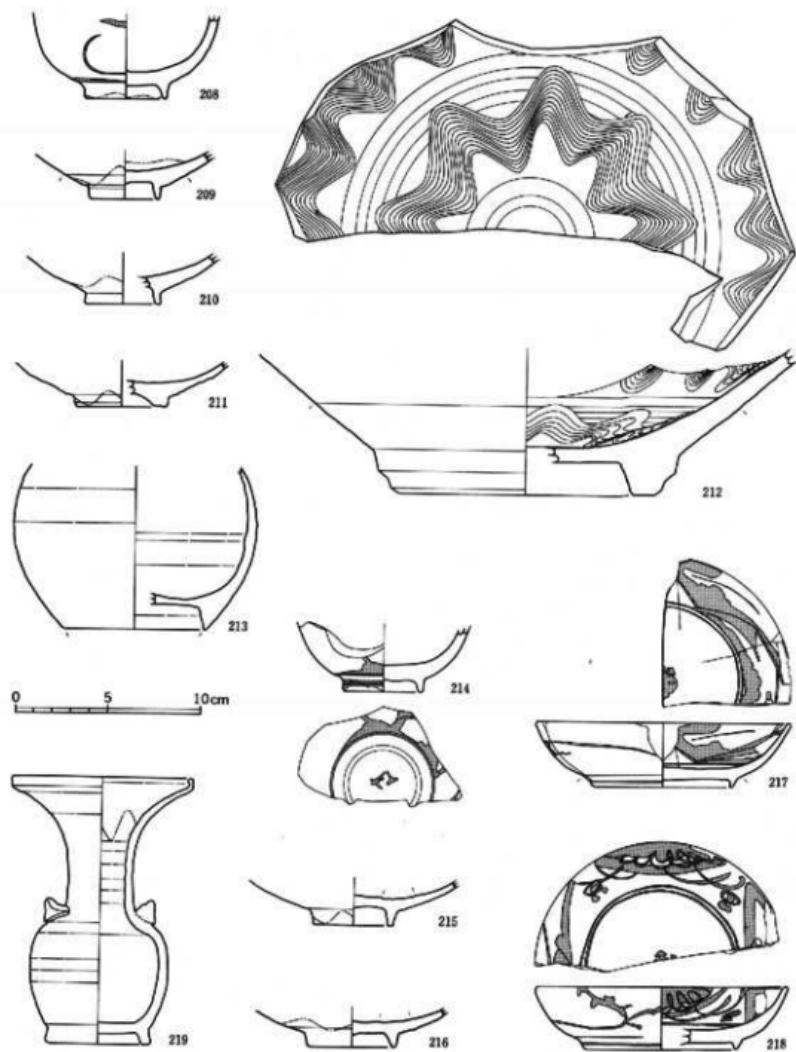
##### 伊万里

第6図-214~219。214~216は椀である。215.216は見込み蛇ノ目釉ハギである。217.218は染付けの皿である。見込み中央は5弁花のコンニャク印判である。また断面には漆が付着しており、接着していたことが窺われる。219は壺である。



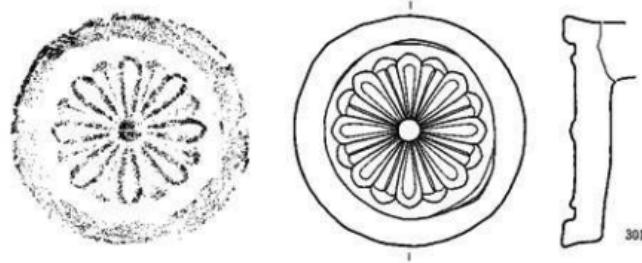
第5図 土器・陶磁器実測図 (1/3)

土師器；101～120。越中瀬戸；201～206。丸山；207

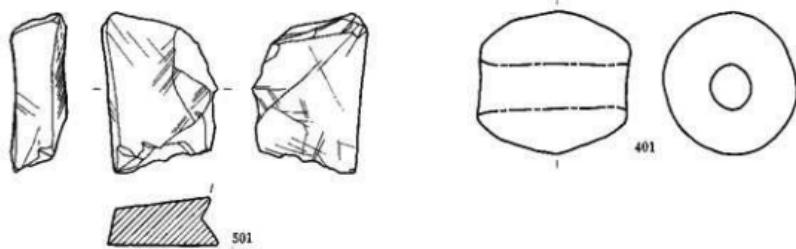


第6図 陶磁器実測図 (1/3)

唐津: 208~213, 伊万里: 214~219

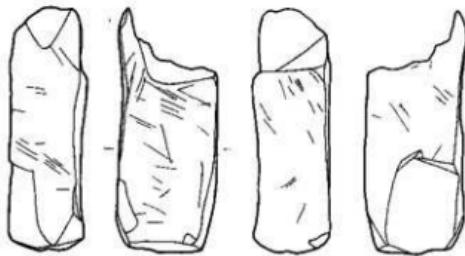


301



401

501



502

0 5 10 cm

第7図 瓦等実測図(1/2)

菊丸; 301, 土錐; 401, 砾石; 501~502

### 3. 瓦

#### 焼瓦

焼瓦は2点出土している。一つはSK06から出土した菊丸である。第7図で301としたものである。これは8弁の花文に鑄がもつ間弁が付くものである。直径8.2cm、中房径0.8cm、弁区径5.5cm、周縁広1.1cm、弁区での厚さ4.0cmを計る。瓦当部のみで、丸瓦部は欠損している。もう一つは図示していないが、SD01から出土した平瓦の破片である。厚さ1.7cmを計る。

#### 釉薬瓦

図示していないが、近世～近代の釉薬瓦が出土している。

### 4. 土 製 品

#### 土錘

ピット01（第4図で「P01」と示した）から出土した土錘で第7図の401である。このピットからは越中瀬戸の皿201も出土しているが、同時期とは断言できない。この土錘は土師質のものである。長さ5.4cm、幅5.0cm、孔径1.5cmを計る。

### 5. 石 製 品

#### 砥石

砥石が2点出土している。第7図の501.502である。501はピットから出土している。502は表土からの出土である。

## IV 結 語

### 遺物の特徴

出土遺物の時期は、先述のとおり、1. 平安時代後期、2. 戦国時代、3. 江戸時代に大別できる。平安時代後期については、土師器皿A類としたものである。11世紀～12世紀頃のものである。戦国時代については、土師器皿C類としたものである。16世紀頃のものである。陶磁器類や菊瓦は江戸時代のものである。

越中国府関連遺跡出土遺物の中心を占める奈良時代～平安時代前期の遺物は極めて少なく、須恵器も小破片が数点出土したのみである。この奈良時代～平安時代前期の遺物が少ないことが、今回の調査地区的特徴と言える。

### 遺構の時期

出土遺物等より、検出遺構の時期は以下のように推定される。

1. 平安時代後期  
SK01・02・03・04
2. 戦国時代  
SK05
3. 江戸時代  
SK06・07・08・09

出土遺物の状態が示しているように、奈良時代～平安時代前期と推定される遺構は検出されていない。

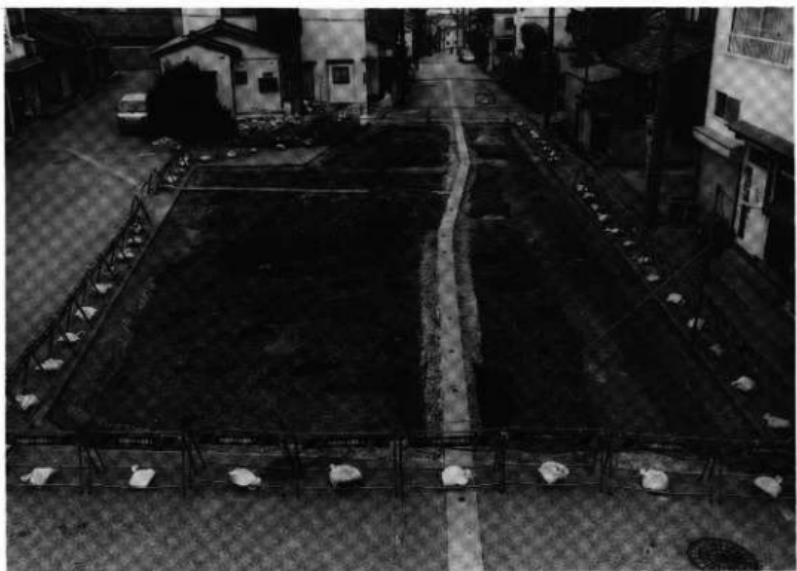
### 調査地区的位置

今回の調査地区は、勝興寺総門東側の道路上、中田貞酒店と仏念寺前の道路上である。今回の地区の100m東側には、伏木測候所があり、平成2年度にこの敷地内で発掘調査を実施した。道路敷と言ふ特殊性より、水道管等による掘削を受けてはいるが、古代の遺構については、伏木測候所地区等と類似するものと予想していた。しかし、奈良時代～平安時代前期と推定される遺構が検出されず、予想がはずれたのである。これについては、勝興寺周辺は総体的には国府を中心とする奈良時代～平安時代前期の遺跡が拡がってはいるが、点的とも言うべき、狭い範囲の調査地区では、これらが存在しない、乃至広場等の空間地が存在しているものと推定している。今回検出された遺構については、平安時代後期や戦国時代については、勝興寺周辺から検出されており、従来通りと言える。江戸時代については、勝興寺の寺内町の一部としてよいであろう。

## 参考文献

- 古岡英明 1956 「昔の伏木」『学習資料－伏木の文化』伏木小学校
- 樋 義他 1967 「越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告」富山県教育委員会
- 西井龍儀他 1987 「北陸の古代寺院－その源流と古瓦」桂書房
- 古岡英明他 1991 「たかおか－歴史との出会い」高岡市
- 正和勝之助 1991 「越中伏木地理志稿」桂書房
- 高岡市教育委員会 1986 「美野下遺跡調査概報」
- 高岡市教育委員会 1987～1991 「越中国府関連遺跡調査概報」 I～V

図 版



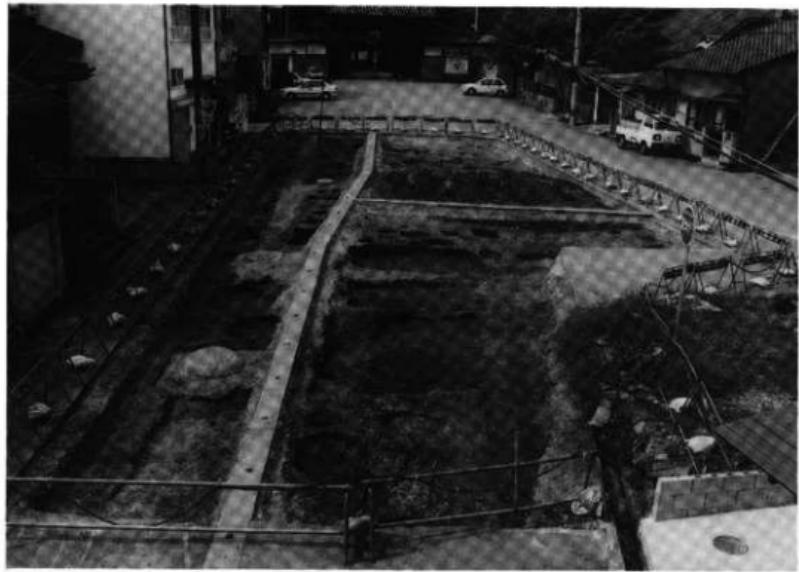
1. 調査地区全景、確認状態（西）



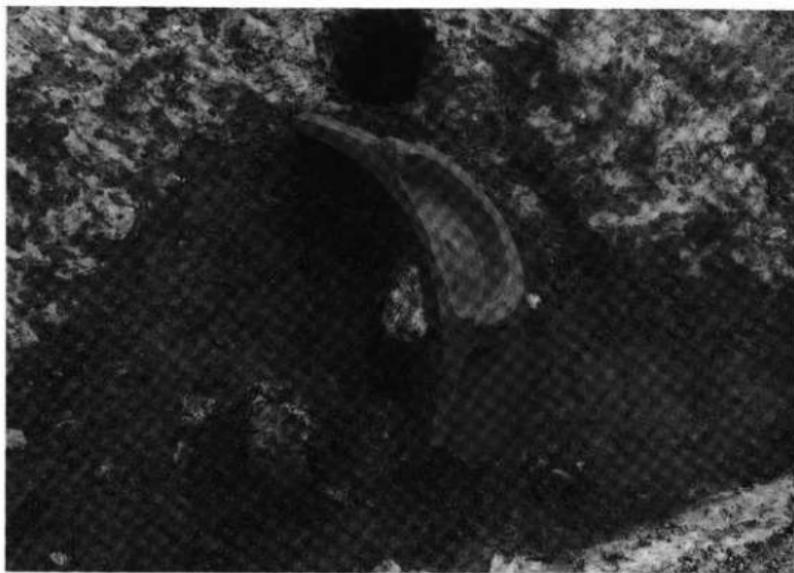
2. 調査地区全景、確認状態（東）



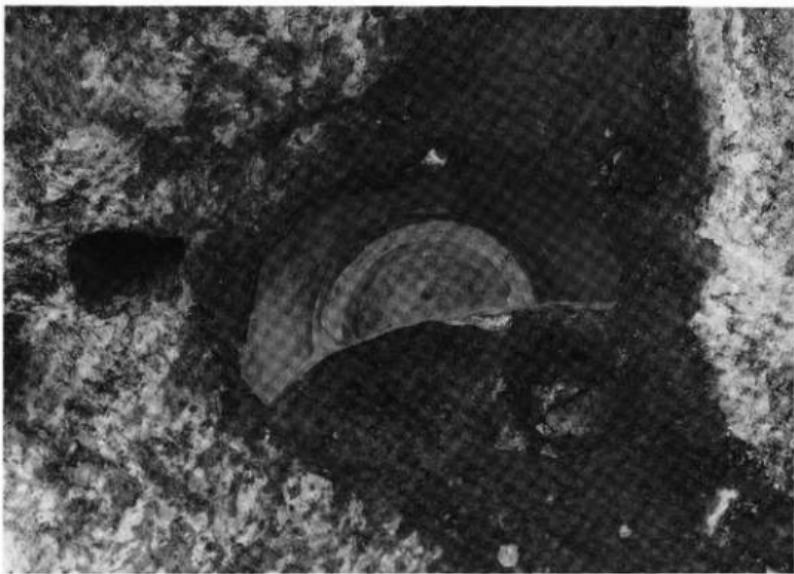
1. 調査地区全景、掘り上げ状態（西）



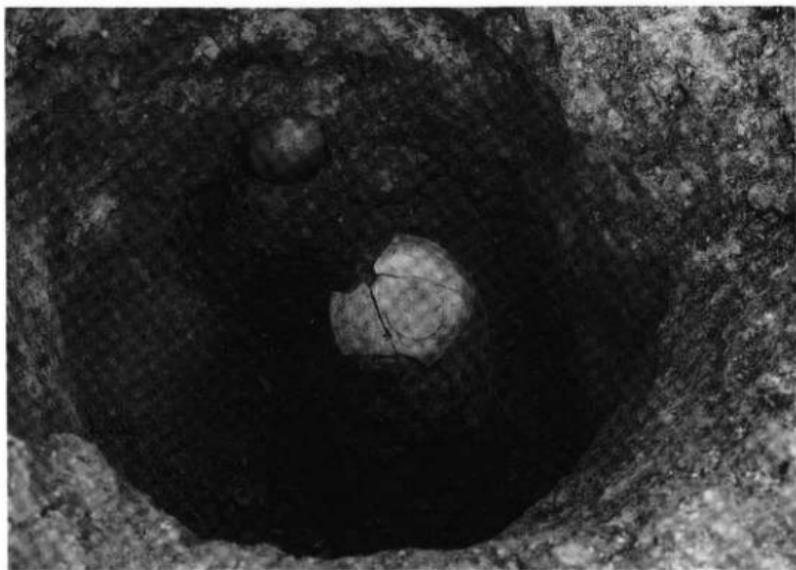
2. 調査地区全景、掘り上げ状態（東）



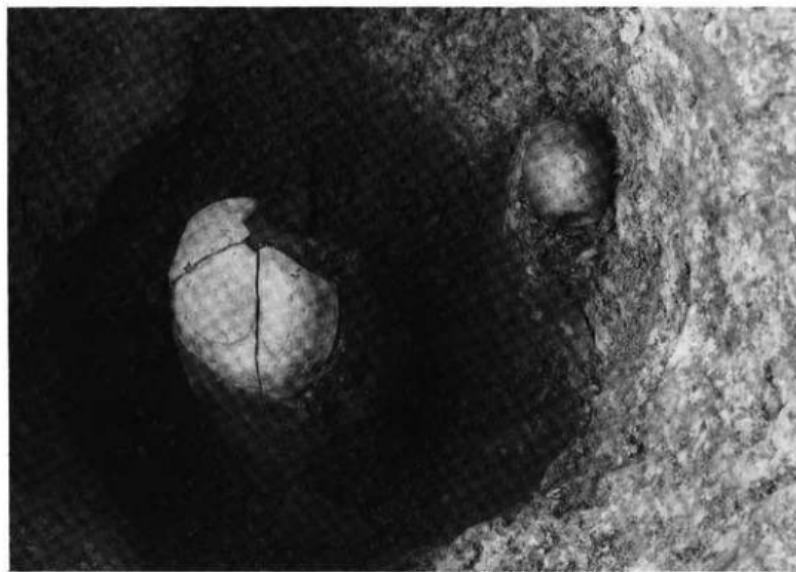
1. 陶磁器出土狀態



2. 陶磁器出土狀態



1. 陶磁器・土鍊出土状態



2. 陶磁器・土鍊出土状態

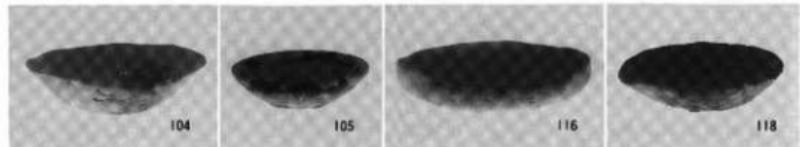


1. 瓦出土状態

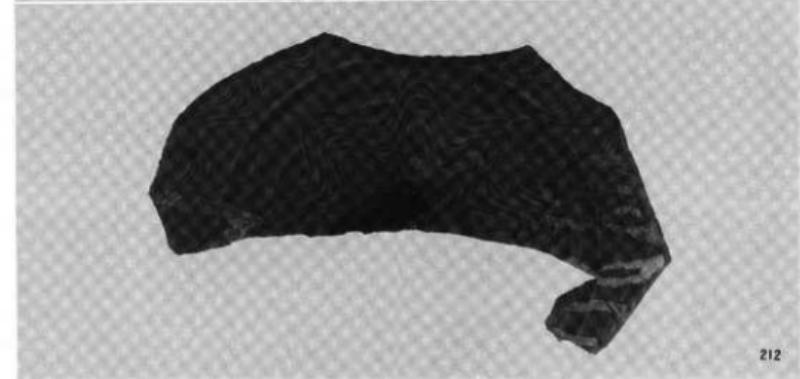
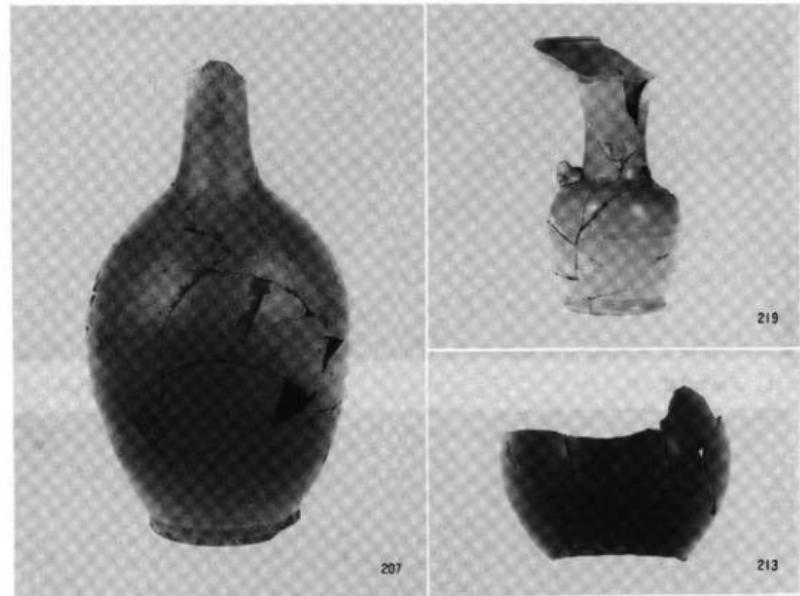


2. 瓦出土状態

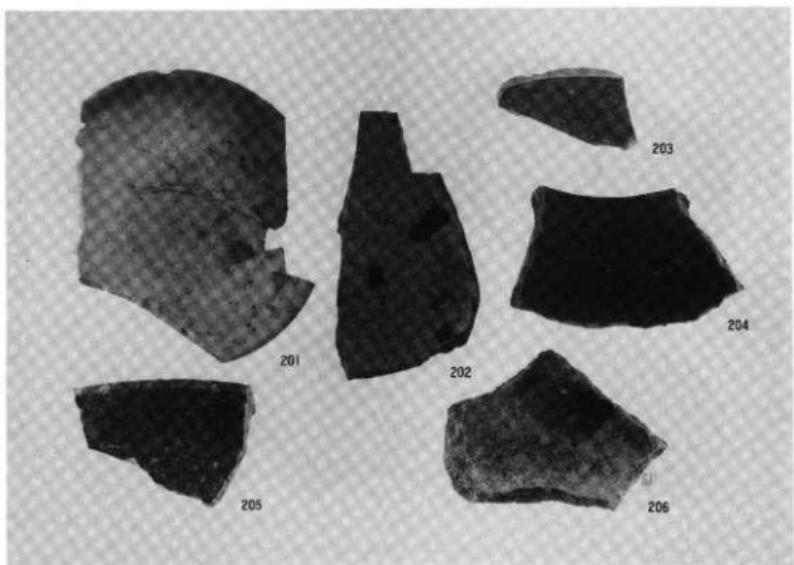
圖版六  
遺物



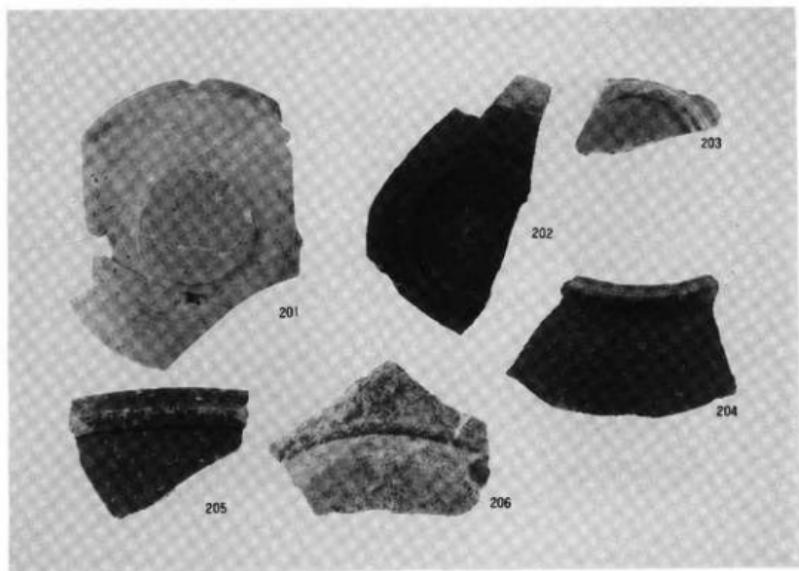
1. 土器



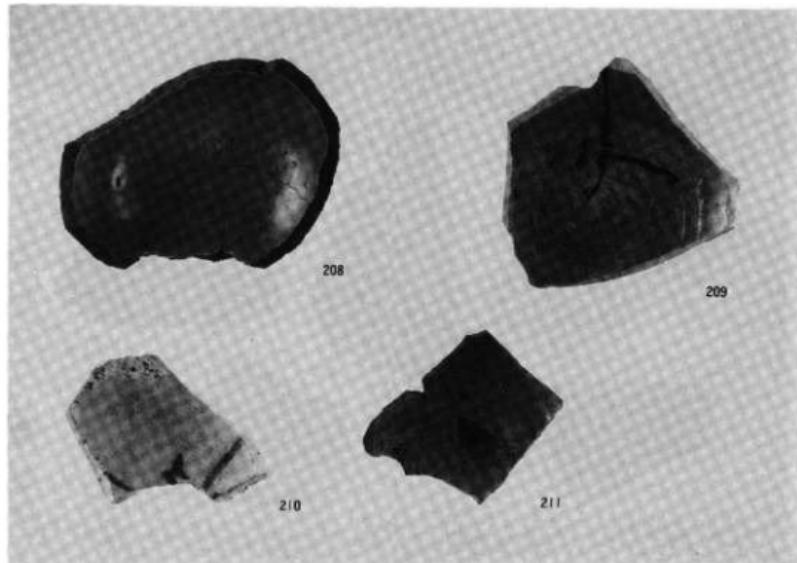
2. 陶磁器



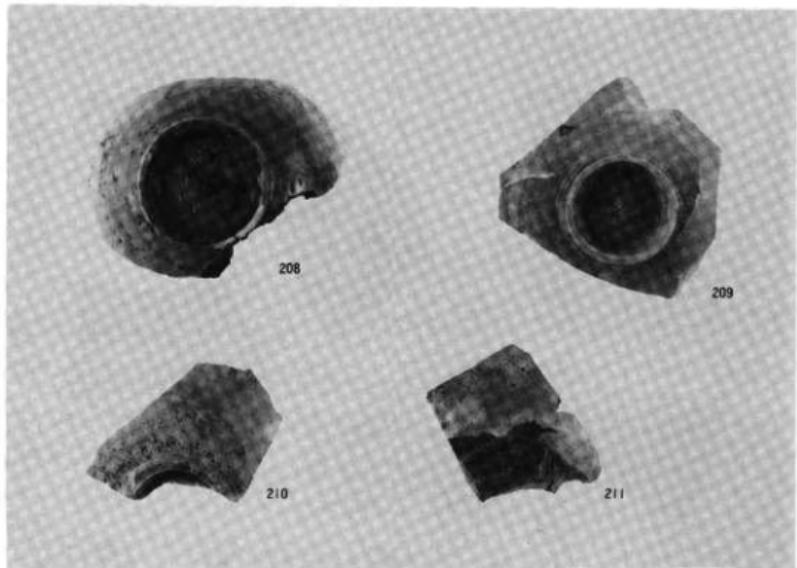
1. 陶磁器・越中瀬戸（内面）



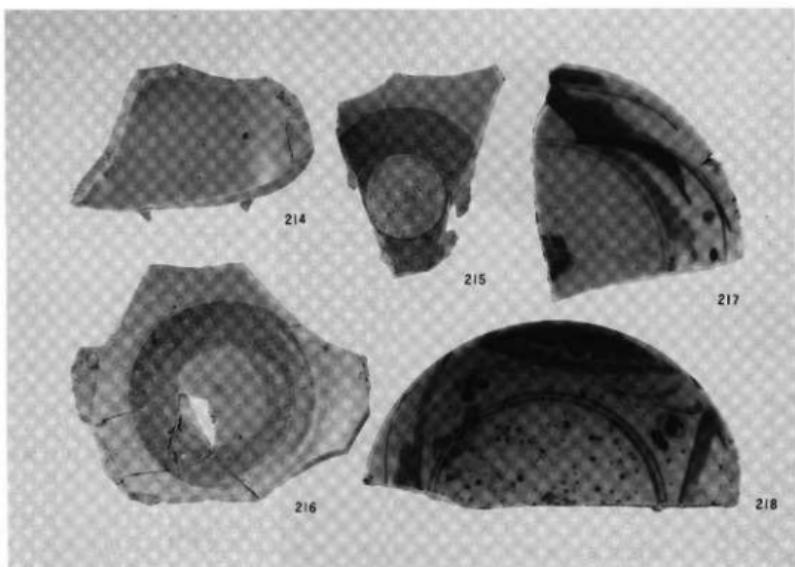
2. 陶磁器・越中瀬戸（外側）



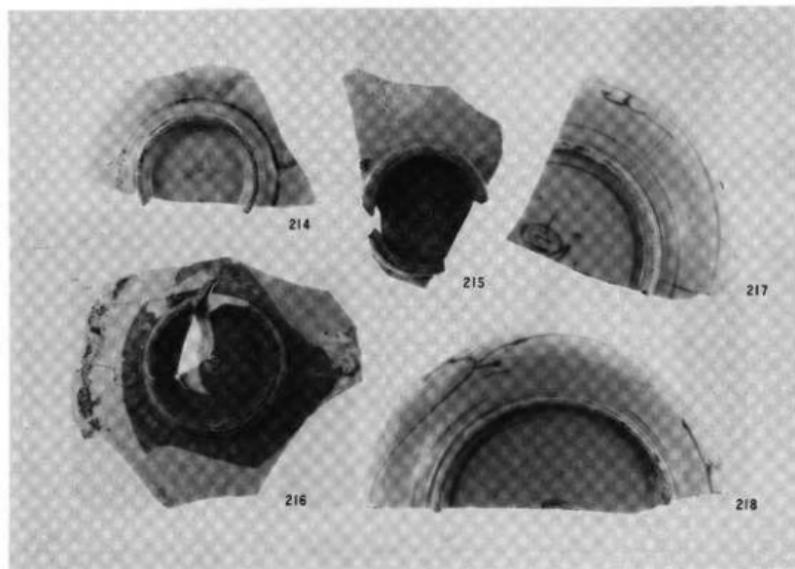
1. 陶磁器・唐津（内面）



2. 陶磁器・唐津（外面）



1. 陶磁器・伊万里（内面）



2. 陶磁器・伊万里（外面）



301

1. 瓦



401

2. 土製品



501



501

8



502



502



502



502

3. 石製品

---

高岡市埋蔵文化財調査概報第26冊

越中国府関連遺跡調査概報Ⅳ

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路7-50

1994年3月31日

印刷所 小間印刷株式会社

富山県高岡市利屋町3

---